

2nd Piano Quintet Concert

夢の響演「室内楽の夕べ in 長野」



2025年

9月6日(土)

F.J.ハイドン

弦楽四重奏曲 第39番 ハ長調 『鳥』 Op.33-3

Piano 中野 孝紀

R.シューマン

おとぎの絵本 Op.113

1st Violin 村石 達哉

R.シューマン

アダージョとアレグロ Op.70

2nd Violin 綿貫 舞乃

Viola 植村 理一

R.シューマン

ピアノ五重奏曲 変ホ短調 Op.44

Cello クリストファー・聡・ギバソン

開演 19:00 (開場 18:30 終演 21:00)

場所 長野市芸術館 リサイタルホール (地下2F)

入場料 一般 ¥4,000 (当日¥4,500) 大学生以下 ¥1,500 (当日¥2,000)

※ 6月15日(土) チケット発売開始

長野市芸術館チケットオンライン <https://www.nagano-arts.or.jp/>

長野市芸術館チケットセンター Tel. 026 -219 -3191 (10:00~19:00/火曜日定休)

- 主催 グリーンハウス・コンサート実行委員会
- 問い合わせ先 TEL. 070-8477-3041

長野市芸術館
チケットオンライン↓



中野 孝紀（ピアノ） *Takanori Nakano (Piano)*

東京藝術大学附属音楽高等学校、東京藝術大学を経て同大学院修了。在学中に安宅賞を受賞する。その後渡欧し1994年ベルリン芸術大学を最優秀で卒業。その間ベルリンを中心に各地でソロ、室内楽演奏会に数多く出演した。1994年10月東京・津田ホールにてデビューリサイタル、NHK・FMの「土曜リサイタル」に出演。1996年カザルスホールでのリサイタルは「音楽の友」誌におけるコンサート年間ベスト10に選ばれた。以降、定期的に開催されているソロ・リサイタルは、毎回期待を裏切らない充実した演奏で高い支持を得ている。またソリストとしてオーケストラとの共演では、ベートーヴェン、ショパン、シューマン、グリーグ、ラヴェル、チャイコフスキー、ラフマニノフ、プロコフィエフ、ショスタコーヴィチ、ガーシュインなどを演奏し、協奏曲のレパートリーも広い。他にヴァイオリン、チェロとのデュオやトリオなどの室内楽、歌曲伴奏者としても積極的に活動しており、数多くの共演者から絶大な信頼を寄せられている。2015年4月に行われた演奏活動20周年記念リサイタルでは、音楽に対する真摯な姿勢が高く評価され、音楽誌上において名演と賞賛された。ピアノを笠間春子、辛島輝治、故・園田高弘、エーリッヒ・アンドレアス、ジョルジュ・シェベックの各氏、室内楽をマリアンネ・ベッチャー、イラン・グローニッヒ、故・マンフレッド・シェルツァーの各氏に師事。現在、東京学芸大学教授。

村石 達哉（ヴァイオリン） *Tatsuya Muraishi (Violin)*

5歳よりヴァイオリンを始め、武蔵野音楽大学、同大学院、ベルリン国立芸術大学首席卒業。SFBラジオ第2放送、ドイツ、イタリア、スウェーデンにおいてリサイタルを開いた後、95～96年にドイツのオーケストラ「エルブランド・フィルハーモニー」の首席コンサートマスターを務め集客力がなかった楽団を再生し惜しまれながらも退任し、その後ソロ活動に移りヨーロッパを中心にオーケストラと共演、音楽祭出演、客演指揮を行い99年に帰国し現在に至る。バロックヴァイオリンの奏者としても研鑽を積み、中国ツアー、米国ツアーを行った。バロック音楽の視点からの作品の演奏解釈を行いアカデミックな表現法を試みている。またそれが認められ2013年にはインディアナ大学の招聘を受け演奏。2012年よりチロル音楽祭と2017年よりウィーン、グラーツのマスタークラスのヴァイオリン講師も務めている。メセナ市民交響楽団の常任指揮者。長野県須坂市在住。

綿貫 舞乃（ヴァイオリン） *Maino Watanuki (Violin)*

3歳よりヴァイオリンを始める。これまでに伝田充正、村石達哉、マリアンネ・ベッチャー、ハルトムート・オメッツベルガーの各氏に師事。ドイツ・ラインスベルクとオーストリア・オーバーグーグルのマスタークラスに参加し、共にファイナルコンサートに出演。2015年、16年、17年とベルリン及びオーストリアでのコンサートに出演し好評を得る。18年にオーストリアのグラーツにてヴィヴァルディのヴァイオリン協奏曲を室内オーケストラと共に共演。19年にはウィーンのカプツィーナ教会にて演奏会を行った。22年ソリストとしてメセナ市民交響楽団と共演。メセナジュニアオーケストラを経てメセナ市民交響楽団のコンサートミストレスを務める。現在、ウィーンと日本での演奏活動と共に後進の指導も行っている。

植村 理一（ヴィオラ） *Riichi Uemura (Viola)*

ニューヨーク州生まれ。東京藝術大学付属音楽高校卒業、同大学入学。Gee国際奨学金コンクールに優勝、シンシナティ州立大学音楽学部に留学。数々のオーナーズ賞を受賞し首席で卒業。1993年同大学演奏家コース終了、アーティスト・ディプロマを得る。オハイオ音楽家連盟コンクール優勝、アスペン国際コンチェルトコンペティション準優勝。シンシナティ交響楽団やベルリンフィル、ウィーンフィルなどの首席奏者と室内楽を共演。1993年から2001年までイタリア、フィレンツェのフォーネ弦楽四重奏団ヴィオリストに就任。ミラノ・スカラ座をはじめ、ヨーロッパ各地の主要なコンサートシーズンに定期的に招聘される。ソリストとしてはNHK/FM出演、モーツァルト協会主催、シンフォニアコンチェルトタンテ、ヴィオラソリストを依頼され、東京文化会館にて演奏。岡山大学開学150周年記念リサイタルを依頼され、これまでに東京銀座王子ホール、カザルスホール、など東京、横浜、浜松、京都、大阪、仙台、毎年全国各地でリサイタルを開いている。現在、東京藝術大学管弦楽研究部講師、全国高校オーケストラ連盟審査員なども務める。

クリストファー・聡・ギブソン（チェロ） *Christopher So Gibson (Cello)*

4歳よりチェロを始める。高校在学中にTanglewood, Indiana University, Interlochen の夏期プログラムに参加。横浜インターナショナルスクール卒業後、2005年に米イェール大学に進学、哲学・政治学を二重専攻。在学中、Aldo Parisotとのオーディションに合格し、イェール音楽院にてメニューイン氏との共演を果たしたOle Akahoshi氏にチェロを、Wendy Sharp氏に室内楽を師事する。2011年秋にイェール大学卒業後、哲学、文学、芸術を通して英語を教えると共に、チェリストとして東京・鎌倉を中心に活躍中。2012年冬、国際演奏家協会新人オーディションにてバッハ無伴奏ヴァイオリンパルティータで入賞した際、審査員の一人であるヴァイオリニスト川島成道氏から「曲の世界に入り込むことの出来る演奏」という賛辞を受ける。